

競技・審判上の注意

- 1 本大会は、平成29年度（公財）日本バドミントン協会競技規則、大会運営規程並びに公認審判員規程により行います。
- 2 棄権をする場合、開会式前ならば各都道府県代表者が代表者会議までに、大会本部へその旨を申し出てください。代表者会議以降ならば、各都道府県代表者もしくは当該プレイヤーが競技役員長にその旨を申し出てください（いずれの場合も、棄権届用紙に必要事項を記載し、提出していただきます）。また、棄権について述べられています大会運営規程第4章第19条が改訂されていますので、注意してください。
- 3 競技の品位を保つため、色付き着衣を使用する場合は（公財）日本バドミントン協会の審査合格品とし、上衣背面中央には都道府県名またはチーム名を必ず明記してください（着衣上の背面、広告、ロゴ等の表示に関する取り決めについては、大会運営規程第24条のとおりです）。
- 4 試合は、試合番号順に空いたコートから入れていきます。本部よりコールのあった選手は各自でコールされたコートにすみやかに入ってください。試合のコール後、5分経過しても当該選手がコートに入らない場合は、レフェリーの判断により「棄権」とみなす場合があります。
- 5 試合の進行状況により、コートを変更して試合を行うことがあります。
- 6 試合が連続することになった場合は、原則として試合終了後15分の間隔を置き、次の試合を始めます。
- 7 試合前の練習はありませんが、各日の初戦（シードを含む）のみ3分間の練習を認めます。練習は当該選手のみで行なってください。（シングルスの場合は、対戦者同士で行ってください）
- 8 審判員の構成は、主審と線審2名とします。サービスジャッジは原則として配置しません。ただし、準決勝並びに決勝は、主審、サービスジャッジ、線審4名とします。
- 9 シャトルの交換については、主審が必要かどうかを決定します。また、使用シャトルのスピードについては、レフェリーが決定します。
- 10 給水やタオルの使用については、必ず主審の許可を得てください。容器については蓋付きのものとし、倒れてもこぼれないものを使用してください。
- 11 試合中のけがや病気については、主審の判断によりレフェリーが呼ばれ、レフェリーがその後の判断をします。なお、試合中のけがや病気の応急処置は主催者で行いますが、その後の処置は各自の責任とします。
- 12 インターバル中、競技区域に入れるのは当該プレイヤーのほか、本大会のIDを表示した競技者（監督・チームプレイヤー等）2名までです。主審の「(コート番号) 20 秒」のコールで、競技区域から離れてください。
- 13 コーチ席はバックバウンダリーライン後方にそれぞれ2席置きます。着席するコーチ（本大会のIDを表示した競技者）はマッチ（試合）にふさわしい服装で臨んでください。なお、その適否は大会レフェリーが判断します（公認審判員規定第3条のとおりです）。
- 14 競技場内フロアでは、携帯電話、パソコン等、それに類似したモバイル機器、及びカメラの使用を禁止します。携帯電話は電源を切るか、マナーモードにしてください。
- 15 レフェリーにより失格を宣告されたプレイヤーは、今大会でエントリーしているすべての種目において失格となります。
- 16 選手は試合開始・終了時に、主審（サービスジャッジ）とも握手をするよう心掛けてください。
- 17 その他については、代表者会議における打ち合わせ事項に準じます